

【様式①】令和2年度 学校評価書

岐阜市立岐阜小学校
校長名 藤田 忠久

市の重点項目	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
全職員や地域コミュニティとの協働による積極的な指導体制を確立し、「チームとしての学校」を実現する	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が学校長の経営方針「ふじたvision」に基づき、共通認識のもとで指導に当たる。 ・「いじめアンケート」等をもとに、決していじめを見逃さない。また、日常的な教育活動を通じた「いじめ防止」や「いじめ対応」に徹底的に取り組む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の「安心」「楽しさ」をキーワードに「学校生活が楽しい」「心がやすらぐ」と感じる児童を育むことができた。 ・いじめを見逃さない日の活動を工夫し、いじめ防止に取り組むことができた。また、いじめアンケートをもとに、いじめを見逃さない指導を徹底することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校でよい行動や態度を評価してもらっており、そのような行動が増えていると感じる。 ・児童がいつも元気に伸び伸びと学校生活を送ることができている。学校での出来事を家庭で楽しそうに話してくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分大好き」「仲間大好き」「ふるさと大好き」を合言葉にして、今後も継続して指導に当たる。 ・普段からの児童理解やいじめアンケートをもとに、些細なことも見逃さないようにアンテナを高く張る姿勢を忘れない。
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程を編成・実施・評価し、教育効果の最大化を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科、社会科、総合的な学習の時間を中心とした「ふるさと学習」をはじめ、新学習指導要領の趣旨に添った授業作りに励む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・2回の社会科全校研究会を通して、新学習指導要領の趣旨に添った授業作りを行うことができた。 ・生活科、社会科と関連を明確にした総合的な学習の年間カリキュラムを作成するなど、カリキュラムマネジメントの視点をもとに実践することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向かって、資料などをもとにして自分の考えをもつことができています。また、積極的に発表し、話し合うことができています。 ・コミュニティ・ティーチャーから学ぼうとする意欲が感じられてうれしかった。ふるさとについて深く学ぼうとする意欲が感じられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマネジメントの視点をもとに、年間を見通した他教科、領域との関連を明確にする。 ・「ふるさと大好き」な児童を育成するために、各教科、領域において見方・考え方がどう繋がっているのかを明確にしたい。
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、ソーシャルキャピタルを活用した学校づくりを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小で育てるべき資質を明確にして、互いに連携して同一歩調で取り組む。 ・ふるさとへの誇りを育てるために、小中が連携して互いに関わり合いながら取り組む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、年長児と1年児童との交流は位置付けることはできなかったが、1年児童が年長児に対して小学校紹介リーフレットを作成するなど上級生になる意識を高めることはできた。 ・中学生も参加して行う挨拶運動もコロナ禍において回数に限りはあったが、行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生を優しく温かく見守ってくれる上級生の姿を目にすることが多く、段階を踏んで、上級生としての意識が高まっていることがよく分かる。 ・地域の行事が再び開催されるようになると、中学生との関わりも増えてきて、互いに関わる姿が見られると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、幼保小の連携をどのように行っていくのかを計画していきたい。 ・小学校教員が幼稚園等や中学校での指導の在り方を理解して、自分の指導に生かすことができるように考えていきたい。
教育環境と学校財務環境を整備・管理し、有効に運用する	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な検査や巡視をととして、環境整備を行い、有効に活用する。 ・コミュニティ・スクールの取組によって、人的・物的環境を整え、有効に活用する。 ・情報を活用して伝えたい内容を整理し、ICT機器等を駆使して発信できる児童を育てる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の点検を通して、修繕が必要な箇所の要望を出すことができています。 ・コミュニティ・スクール学び部によるコミュニティ・ティーチャーには、地域のよさを伝えていただき、「ふるさと大好き」な児童が育っている。 ・iPadを活用し、情報収集・情報発信ができる児童が育っている。オンライン授業も全学級で行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開校して十年以上となり、修繕が必要な箇所が出てきた。必要なら要望を出していく。 ・コミュニティ・ティーチャーに積極的に質問をしたり、課題に向かって探究したりする姿が見られ、「ふるさと大好き」な児童が育っていることが分かった。 ・校外学習でiPadを使って記録をする姿が見られ、情報機器を有効に活用していることがよく分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の安全を守るために、毎月の点検を確実に行う。 ・コミュニティ・ティーチャーを有効に活用し、ふるさとを詳しく知り、「ふるさと大好き」な児童を育成する。 ・情報機器を使って、積極的に情報を発信していくような学習活動を引き続き仕組んでいく。
災害や事故等、多種多様な非常事態に対する安全性の確保をする	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的かつ実態に即した命を守る訓練の実施や交通事故、不審者などについて随時指導をする。 ・コミュニティ・スクール委員やPTA役員と共に、視点を定めた通学路の点検などを行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回の命を守る訓練を事前連絡なしで掃除の時間に行った。どこへどのように避難するのかを考える姿があり、日頃の指導の成果が見られた。 ・通学路点検において、危険箇所を再点検し、通学路の変更などを検討することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難に対する真剣さがすばらしかった。自分の命を守ることを訓練を通して、真剣に考えることができていた。 ・通学路については、こまめに点検をし、児童の安全を最優先に考えて、見直し等をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に災害に対する備えをもち、日常場面で自分の命を守る意識を高めていく。 ・通学路点検は決まった日だけでなく、見守っていただいている保護者や地域の方にも意見を聞いて、児童の安全を確保する。